

大規模住宅団地における公共空間の評価に関する研究 : 福岡市の4団地を事例として

朱, 蓓琳

<https://hdl.handle.net/2324/4784630>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	朱 蓓琳			
論文名	大規模住宅団地における公共空間の評価に関する研究 —福岡市の4団地を事例として—			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	大井 尚行
	副査	九州大学	教授	田上 健一
	副査	九州大学	准教授	井上 朝雄

論文審査の結果の要旨

この論文は、大規模住宅団地内の公共的に利用される空間について、スペースシンタックス理論による分析と現地の観察調査を組み合わせることによって、大規模住宅団地内の公共空間の配置についての問題点を明らかにし、大規模団地の改修計画等への応用可能性について論じたものである。

まず第1章「序論」で本研究の背景として人口減少や近隣交流の希薄化など深刻な問題に直面する大規模住宅団地に対して、公共空間は団地に暮らす人々にとって欠くことできないものであること、既往研究では空間解析方法の応用が少ないことから、本研究ではスペースシンタックス理論を用い、公共空間の構造特性を解析するとともに、団地観察調査で総合評価を行い、現状と問題点を把握した上で、団地公共空間の活用や地域の持続可能なまちづくりのための、有効な客観的資料を提供するという研究の目的が示されている。

続いて第2章「福岡市における住宅団地の発展と研究対象団地」で1950年代から1980年代までに建設された主な35団地を分析し、住宅団地の現状を把握した上で対象団地が検討された。主に福岡市の団地発展を各時代に関連する規制、団地の情報などを基に整理が行われ、供給準備期、大量供給期、質の向上期、団地再生期の4つの時期に区分した上で、本論文での大規模住宅団地の定義を団地規模1000戸以上かつ面積10ha以上とし、目的に適合する4団地として高齢化が著しい弥永、城浜、福浜、下山門団地が選定された。

第3章ではスペースシンタックス理論に基づく分析が行われた。スペースシンタックス理論のAxial分析を行い、主にIntegration Value(空間のつながり)とIntelligibility(理解度)指標を用いて、空間構造の特性を定量化した。スペースシンタックス理論は建築内部から都市までさまざまなスケールで用いられているが、これを日本の団地全体の敷地内配置に対して用い、4つの団地の違いを明らかにできることを示したところに新規性が認められた。

第4章では同じ4団地を対象に観察による公共空間利用の実態調査が行われ、各団地により異なる特徴的な利用実態が明らかにされた。

第5章において、実態調査の結果とスペースシンタックスによる分析の結果を合わせることで、単独の空間分析や実態調査からでは得られない、団地ごとの問題点を把握し、将来の配置計画改善等に活用できる可能性が示された。

全体として、論文を構成する主要な内容は水準に達しているものと考えられ、予備審査で指摘があった、背景説明や結果の応用可能性についても追記されていることから、3名の審査委員の合議により、本論文は博士(工学)の学位に値すると判断された。